

国際文化研究科履修モデル

I. 博士前期課程

まず履修枠組として院生は2年以上在籍し、30単位以上修得すること、その内わけとして、指導教員担当の演習8単位及び特殊講義2単位以上を含む専修科目を16単位以上修得することが必要であることを理解しなければならない。それ以外はすべての開講科目からの選択履修が可能である。国際文化研究科は専攻領域がきわめて多岐にわたるため、普遍的履修モデルはやや作成しづらい。しかし、自分の専門領域以外の演習、講義科目にも積極的に参加されたい。以下に一応の履修モデルを提示する。

履修モデル

1. アジア文化専修部門

a. 講義科目

日本文化論特殊講義 A,B、日本文化史論特殊講義 A,B、東南アジア社会文化論特殊講義 A,B、東アジア民族社会論特殊講義 A,B、考古学方法論特殊講義 A,B、日本近世近代社会論特殊講義 A,B、中国民族文化論特殊講義 A,B、中国近現代文化論特殊講義 A,B、近現代中国歴史文化論特殊講義 A,B

より指導教員の担当科目2単位以上を含み履修する。同時に自己の専攻と連関があるか、ないしはより近いと思われる講義を履修することが望ましい。

b. 演習科目

日本文化論演習、日本文化史論演習、東南アジア社会文化論演習、東アジア民族社会論演習、考古学方法論演習、日本近世近代社会論演習、中国民族文化論演習、中国近現代文化論演習、近現代中国歴史文化論演習

より指導教員の演習8単位を含み履修する。同時に自己の専攻と連関があるか、ないしはより近いと思われる演習を履修することが望ましい。

2. 欧米文化専修部門

a. 講義科目

近現代思想論特殊講義 A,B、現代哲学特殊講義 A,B、ヨーロッパ・地中海文化史特殊講義 A,B、イタリア・地中海文化論特殊講義 A,B、ドイツ文化論特殊講義 A,B、古代・中世キリスト教文化論特殊講義 A,B、美学・芸術学特殊講義 A,B、表象文化論特殊講義 A,B、表象メディア論特殊講義 A,B、造形文化論特殊講義 A,B、近代アメリカ論特殊講義 A,B、アメリカ社会文化論特殊講義 A,B、文化人類学方法論特殊講義 A,B、キリスト教思想論特殊講義 A,B

より指導教員の担当科目 2 単位以上を含み履修する。同時に自己の専攻と関連があるか、ないしはより近いと思われる講義を履修することが望ましい。

b. 演習科目

近現代思想論演習、イタリア・地中海文化論演習、ドイツ文化論演習、古代・中世キリスト教文化論演習、美学・芸術学、表象文化論演習、表象メディア論演習、近代アメリカ論演習、アメリカ社会文化論演習、文化人類学方法論演習、キリスト教思想論演習より指導教員の演習 8 単位を含み履修する。同時に自己の専攻と連関があるか、ないしはより近いと思われる演習を履修することが望ましい。

II. 博士後期課程

博士後期課程では博士前期課程で学んだ専攻分野をより深化させるべく、研究指導を週 1 コマ以上履修し、各学年に 4 単位、合計 12 単位を修得することを前提とする。さらに指導教員以外の教員が担当する講義科目 2 単位以上を修得しなければならない。

履修モデル

1. アジア文化専修部門

日本文化論研究指導、東南アジア社会文化論研究指導、東アジア民族社会論研究指導、考古学方法論研究指導、日本近世近代社会論研究指導、中国近現代文化論研究指導、中国民族文化論研究指導、国際文化特別講義より履修。

2. 欧米文化専修部門

近現代思想論研究指導、古代・中世キリスト教文化論研究指導、美学・芸術学研究指導、表象文化論研究指導、表象メディア論研究指導、キリスト教思想論研究指導、国際文化特別講義より履修。